

# 陳情書

2024年6月6日

カトリック司教協議会会長・新聞担当司教

タルチシオ 菊地功大司教様

陳情者 カトリックの未来を考える会

鈴木みどり、生沼房代、南結子、宇田川博美

## 件名 「週刊カトリック新聞休刊」の再審議について

### 陳情要旨

2024年2月のカトリック司教協議会での決定事項「週刊カトリック新聞休刊」の報は多くの修道者・司祭・信徒にとって青天の霹靂であり、「カトリック生活」誌の廃刊と共に大きな反響を巻き起こしました。当会ではこれを機に、各々が日本のカトリックの未来・自分の信仰の未来を再考する機会にしようとアンケートを作成。全司教、全修道会、教会に1700通を郵送、ネット配信等を行い6月2日時点で710名の回答を得ました。この結果を添え、次回の司教総会で上記の件について再審議していただきたく陳情申し上げます。

### 陳情内容

- 1.現代日本カトリックにおける紙媒体カトリック新聞の「存在意義とそのニーズ」を再認識し、2025年3月での週刊カトリック新聞休刊を再考していただきたい。(ネット媒体との共存を進める)
- 2.代替案としては、発行回数を隔週に減らし料金設定も変更する等。同時にその存在意義の再確認のもと、購読者を増やすための運動を司祭・信徒共同で強力に行っていく。またその公的価値や福音宣教の観点から読者購読料のみに頼るのではなく、公的に支える方向も考える。
- 3.現在の日本カトリックが抱えている問題(経済的問題、人的資源の問題等)についても可能な限り透明性を持たせ、修道者や信徒も共にカトリック全体で考え、改善に向かって協働できるよう(シノダリティ)計らっていただきたい。

### 提案理由

- \*アンケートの結果から、地域差等はあるものの、概ね日本人カトリックの9割が60歳以上の高齢者という現状が示唆された。(回答者710名のうち、50歳代以下はわずか42名だった)
- \*この現状の中で、先の司教協議会による提案は、「贖いきれない損失」(平林冬樹神父「カトリック生活」2024年感謝号の「カトリック生活」誌廃刊に関する言葉)の二の舞いになるのではないかと危惧するものである。(詳細は、後述)
- \*今回の決定は一般信徒・修道者・司祭にとって非常に唐突であり、この決定に「神の民」全体の声が反映されているとは思えない。情報をできる限り早くオープンにし、司祭・修道者・信徒(様々な専門家がいる)も「共に」現代カトリック再生のために力を尽くす場を設けてほしい。本陳情書に寄せられた様々な声に耳を傾けてほしい。それこそが本当のシノダリティ(共働性)ではないか。

\*参考文献: 「シノドスとシノダリティー日本のキリスト者と教会の生活に影響を及ぼしている問題は何か」  
「結論として、まず最初に来る「神の民」(全員)というカテゴリーの豊かさを私たちは再発見しなければならないと思います。～中略～ 教会位階こそが「神の民の中に身を置き、すべての信者の声に耳を傾けながら信者の一人として生きていく」ように求められています。(駐日バチカン教皇大使レオ・ポカルティ大司教の2023年2月13日の司教総会挨拶)

引用 <2023. 7. 1 カトリック・あい>

# 資料1 アンケートの結果から

## アンケートの方法と集計結果

- \* 発送期間：2024年3月～4月2日（紙ベース）発送数1700部 +URL・キリスト新聞の案内、手渡し
- \* 費用：有志負担+修道会からのカンパ \*対象：カトリック信者
- \* 6月2日時点での回収総数710名。（うち修道者290名）  
現在も回収中。（一枚の回答に「〇〇人の意見です」として提出されたものも多数ある）
- \* 回答を下された方の内訳（6月2日時点）  
○年代別：60歳以上が9割4分。（50代以下は42人。30代4人、40代11人、50代27人）  
○男性と女性の割合は1：3（返答くださった司祭・修道者・信徒の属する教会名・修道会名は資料2）
- \* 当然のことながら、カトリック新聞を読んでいる人と読んでいない人では反応が大きく異なっていた。（回答を寄せて下さった方は、カトリック新聞を読んでいる人が7割だった）
- \* 今はカトリック新聞を読んでいなくても、カトリックの今と未来について、疑問や提言を出して下さる方もたくさんいた。
- \* 多くの方々が自分の信仰やカトリックの未来について考える貴重な機会になったと書いている。

## 以下、アンケート項目別に寄せられた意見（抜粋）

### 1. 休刊についてどう思うか？

- 休刊に至る理由が明確でなく、性急すぎる。もっと早く危機の状態を具体的に開示し、協力を仰ぐべきではなかったか。高齢者が主体の日本カトリックにもたらされる休刊の影響の深刻さが本当に理解されているのか。
- \* **財政の問題**  
新聞そのものの損益分岐点を明示し、もっと早くその危機を知らせ協力を仰いでほしかった。教皇訪日の際の予想外の出費やカトリック会館の運営維持に関する財政、中央協議会内の組織や経営の問題など、カトリックの実態について、可能な限りもっと透明性を持たせるべき。
- \* カトリック新聞の営業部門の工夫が必要ではないか。そのためにはまず、司教・司祭が新聞を丹念に読み、その内容（社会的な問題も含め）とカトリックの公的な新聞としての存在意義を理解し、そのうえで営業（福音宣教としての購読の喚起）を助けることが不可欠。
- \* 購読の申し込み方法や支払い方法が時代遅れ。ネットでも簡単に購読の申し込みができるようにし、銀行引き落としも考えるべき。購読期間も「最低半年以上」ではなく短期も可に。1か月の無料お試し購読なども（受洗者のみでなく）。民間に倣い、もっと営業・宣伝の工夫をすべきではないか。
- \* 寄付金や特定献金も視野に。カトリック新聞を支えることで、自分も宣教に参加できることになる。
- \* **人的資源の問題**  
取材・翻訳・編集・営業等も、もっと信徒や修道者に協力を仰げないか。シルバー人材やボランティアの活用。教区の広報との連携・信徒の取材・投稿を増やすなど。
- \* **エキュメニカルにプロテスタント・聖公会等との協力体制をすすめる。**
- \* カトリック系月刊誌の休刊も相次ぐが、出版修道会同士、キリスト系新聞社や出版社との連携も視野に入れ、今こそ、キリストに従う者同志が垣根を越えて協力すべき。

## \*ネットの時代

ネットには限界や問題もある。紙媒体をなくすのは早計。司教団から提案されている代替案の内容も不透明。今の時代はネットと紙媒体の双方が必要。得意な人材を確保し、魅力あるweb媒体を。

### ○紙ベースの週刊カトリック新聞の存在意義が理解されていない。

\*紙媒体でのカトリック新聞は高齢者が9割の日本で、福音宣教の観点から極めて高い公共性を帯びたものである。全国版であることで「教区ニュース」とは別の使命がある。

\*ネット環境がない人、観想修道会、受刑者、病者、高齢者にとって信仰の寄り添たる紙媒体週刊カトリック新聞の存在はなくてはならぬもの。御言葉の祭儀を行わざるを得ない教会では、新聞に書かれている主日の福音解説を説教代わりに使っている所もある。(高齢者、観想修道会、巡回教会などから「ブドウの枝を折らないで」との切実な声が大変多く届いている。ネット利用者からも、味わって読め、仲間と話題を共有できる紙媒体の存続を求める声はたくさん寄せられている。

\*被災地の状況や世界の時事問題・バチカン・司教団の声明入手等、週刊であることの意味は大きい。

\*カトリック界における言論・報道の自由の場・意見交換の場が失われる。意見を交換し、繋がって「共に」行動していく貴重な場が失われてしまう。

\*紙媒体は被災者支援や難民支援等への協力をカトリック界で一番広く呼び掛けられる場であり、この新聞の記事から寄付が寄せられた例は多々ある。また、信者同志の絆であり、信仰を生きるものとして切磋琢磨する場でもある。事実上、それが無くなってしまふのは、カトリックの精神的支柱を失う、致命的損失である。

\*福音宣教的観点からの使命も大きい。これを読んで洗礼を受けた例もある。信者以外にも配れる。

\*カトリック新聞購読は司祭の重要な仕事の一つ。読んでいなければ、信徒にその価値をアピールできない。司祭は率先して新聞を熟読し、説教に記事を紹介し、話題を盛り込むなどをしてほしい。

\*「外に出て行きなさい」という教皇のことばに従えば、難民や世界各地の平和問題・被災地の情報など、社会の縁辺に押しやられた人々の実態を知らせるこの新聞の重要性は明らかである。

\*カトリックは社会問題にもっと関心を持つべきで、その意味でもこの新聞の存在は大きい。

\*紙媒体は、一見して全体が俯瞰でき、関心がない問題にも、世界の問題にも広く触れることができる。ネットでは自分が興味のある所だけを読み、色々な問題を人々の間で共有することが難しい。教会や各自が新聞を印刷をして配るということも現実的には、限界がある。高齢者にはネット版は読みづらく、記事を読まなくなる。他方、紙媒体は読み返すことも容易で、祈りを深められる。忙しくても後でゆっくり読んだりスクラップできる。切り取ったものを持ち寄って他の人ともわかちあったり、話題を共有しやすい。

◎一方で、「時の流れ、休刊すべし」15名、「やむを得ない」55名、「できれば休刊してほしくないけれどやむを得ない」という意見が52名あった。「休刊してほしくない」は7割強。

## 2 信徒の心構え

\*まず祈る。ミサを大切に。ロザリオ・家庭での祈りも。\*ミサに与るだけでなく、福音のわかちあいの時間が必要。\*聖書をよく学ぶことが大事。(カトリック新聞などの)読書会をく。Zoomで祈りの会を行う。繋がる。今は教会に來れなくなってしまった方、來なくなった方に福音を届ける方法を必死で考える。靈にきく対話を心がける。

\*「信仰は命がけ」 殉教者魂をかみしめる。初代教会の原点に戻る。

- \* 「おかしい」と思うことには、よく祈って聖霊の助けを借りて、意見を述べ、仲間を募って「共に」活動していく。教会内にも、パワハラや男尊女卑の問題がまだ存在している。
- \* 「従順」「謙遜」の本当の意味はなにか。忖度せずに、誰よりも、神様が望んでいることを聖霊に聴き、考え、行う勇気を持つ。愛には恐れがありません。真理は人を自由にする。
- \* カトリックが大きな危機に瀕しているという自覚が、司祭にも信徒にも圧倒的に足りない。教会でこの話題について何とかしようと話し合う場を意図的に設けるべき。その意味で、今回のこのアンケートは多くの人への問題提起になった。これで終わらせず、ここから自分たちのカトリックの将来についてよく話し合い、行動していくことが必要。新たな出発点にしていく。
- \* 「終わり」は始まりである。この試練は神の警鐘である。他人事にしないで祈り、行動する。
- \* 「家庭」という枠からはみ出ている人々、外国籍の人、難民、平和の問題など、時のしるしを読んで、祈り、今できること、すべきことに勇気をもって対応していく。旧態依然とした態度を改める柔軟性も必要。「教会は野戦病院になるべき」という教皇の言葉を心に留める。
- \* 本当のカトリックとは何か。普遍的であることを求め続ける。内向きにならないで。
- \* 外国籍の方々との共生に向けて、努力していく。まず声をかける。食事を共にする。
- \* 「事」が起きてしまったからの対応のみならず、「事」が起きないようにするにはどうしたらいいのかという視点でみ旨を聞きながら行動していく。社会、平和、構造的な問題にも関心を持ち、必要な時には声をあげる勇気を持つ。平和・軍備・憲法・原発・労働などにも意見が寄せられた。
- \* カトリックの枠にとどまらず、いろいろな方々に学び、協力していく。同時にカトリックの視点を伝えていく。福音を携えて外に出ていく。開かれた人間になり、開かれた教会にしていく。
- \* どうしたら福音を伝えられるかを一人一人が我が事として真剣に考え、仲間と一緒に実践していく。互いの体験を分かち合う場を持つ。\*可能な限りカトリックであることを公言し、その喜びを生き方で示す。\*一番大切なことに時間と労力を使う。
- \* 日本の風土にあった福音の伝え方を工夫する。掟重視、教条主義でなく、まず寄り添う。

### 3. 財政について

- \* カトリックの財政の危機をもっと開示、アピールし、積極的に寄付を募る。生前贈与、遺贈も。その方法についても具体的に教える。窓口を作る。クラウドファンディングも。
- \* 司教協議会内の各委員会の財政援助金を見直す。情報公開を。使い道を吟味する。今まずやるべきことを最優先に。今はハード面よりソフト面（心の充実）を優先させる時ではないか。新聞の存続を！
- \* プロテスタントに比べ、カトリックは圧倒的に教会に対する献金が少ない。「財は天に積む」という御言葉を再度かみしめ、いただいている恵みに感謝の気持ちで努力する。その自覚を促すためにも、紙媒体のカトリック新聞を通して情報を流し、アピールする。
- \* これまでは修道会などが、福音宣教のために輸入単価よりも安い値段で日本人信徒に様々なものを提供したり、無償で労働を提供してきたが、日本人信徒は、もう外国人宣教師や修道会に頼る甘えから脱却するべきである。
- \* ラウダート・シの精神に学び、日本の教会全体で、もっと真剣に清貧に努める。ハードよりもソフト（人づくり・心づくり）を。「世にあって世のものでなく」を実践する。
- \* 外国籍の方々にも日本の教会の財政難の実態を開示し、運営に関わってもらい、教会維持費への理解を深めるなど、財政面への協力も積極的に求めていく。

- \*空き家になった修道会、幼稚園、土地などの不動産をプロの信徒の知恵を借りてうまく活用していく。
- \*カトリック新聞がペットボトル1本相当の値段設定（165円）を見直す。（定期購読の申し込みが半年・年単位なので一見すると「高額」という印象を持ちやすい。誤解を解く工夫を。福音宣教のツールとしてプレゼントしやすい方法を考える。受洗記念のみならず読んでない人も対象にしたい。
- \*経済的に苦しい方々にどう情報を届けるかは、教会として考えていくべき。
- \*カトリック新聞はカトリック教会の公的な大きな宣教・司牧の媒体なので、個人の購買力に頼るだけではなく（もちろん読者数を増やすことも大切だが）、日本カトリックとして、例えば不動産の運用を利用するなどして永続的に維持していく方法を考える必要がある。大きな立派な建物よりも、多くの人の心の支え・祈りの寄り添いになる紙媒体の週刊カトリック新聞の永続を考えるべき。

#### 4. 司祭・司教に対するメッセージ

- \*何といたってもまず感謝。大きな犠牲を捧げて下さっているご家族にも感謝。
- \*司教団や司祭の中でも年功序列制が幅を利かせているとも、もれ聞こえてくる。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」。上に立つ人ほど、自分を見つめ、謙遜でいてほしい。祈る人であってほしい。
- \*時々に謝罪をなされた教皇の謙遜さを学んでほしい。性被害者・支援者に対する態度などでも。
- \*司祭がまず新聞を読みアピールしてほしい。意見や信仰の歩み等を載せてほしい。
- \*「仕えられるよりも仕えるために来た」という、司祭職を忠実に生きてほしい。立場に胡坐をかかないで。社会の問題にも関心を持ち、世界の縁辺の人々を心に留め、羊の匂いがする司祭になってほしい。家族を持ち、不安定な社会で必死に生きている羊の匂いをかぎ取ってほしい。「神父様」でなく「神父さん」でいてほしい。
- \*教義のみでなく人間の琴線に触れる全人的なアプローチを望む。人間的に魅力ある人に。

#### 5. カトリック新聞社に対するメッセージ

- \*素晴らしいこれまでの働きにまず感謝。一般紙では扱えない話題を詳しく伝えてくださり有難い。難民や沖縄の問題等々。教皇の言葉や書籍や映画、集いや講演会等の情報もすべて有難い。全ての記事をなめるように全部を読んでいる。心の糧である。\*ボランティアや信徒が手伝える所はないか？ \*上意下達ではなく、真にキリストの心を伝えることを目指してほしい。
- \*教会の負の部分にも触れる勇気を。言論統制にならないようにしてほしい。
- \*問題提起をして信徒間の意見交換の場を設けるなど、信徒の参加をもっと多くし、信仰醸成の啓発の場となってほしい。 \*営業・宣伝の工夫を。もっと注文しやすくする。

#### 6. その他の意見

- \*典礼の言葉や旋律の改変への異論。
- \*「いつくしみ」と「あわれみ」は明らかに異なる概念。その違いを理解し、「主よ、あわれみ給え」という言葉の復活を願う。聖歌（旋律）の変更に対しても日本の文化に即した典礼への希望。
- \*司祭不祥事や性被害者に対する教会の対応への疑問。実態解明と権力横行への反省を求める声。
- \*外国籍の方々が増えてくる中で、日本カトリックの情報をどう伝え共存していくか。
- \*署名がネットになってきているが、紙媒体でないとできない人がいることへの配慮を。

## 資料2

6月2日現在

### アンケートへの返答をお寄せ下さった司祭・修道者が属する修道会

- 【男子】 イエズス会、イエズス・マリアの聖心会、神の愛の宣教者会、フランシスコ会、パリ外国宣教会、  
聖ヨハネ病院修道会、
- 【女子】 愛徳カルメル修道会、レテンブートル会、マリアの宣教者フランシスコ会、聖ドミニコ会、聖母被昇天修  
道会、聖クララ会、幼きイエズス修道会、聖心侍女会、幼きイエズス修道会、御聖体の宣教クララ会、  
聖心会、西宮カルメル会、大分カルメル会、女子パウロ会、スピノラ修道女会、キリストイエスの宣教会、  
ナザレト修道院、サレジアンシスターズ、マリアの御心会、ベタニア修道女会、聖マリアの汚れなき御心の  
フランシスコ姉妹会、お告げのマリア会、イエスのカリタス修道女会、神の御摂理修道女会  
十字架のイエス・ベネディクト修道会、聖母訪問会、純心聖母会、コンベンツアル聖フランシスコ修道会  
神の愛の宣教者会、女子御受難修道会、アジジの聖フランシスコ宣教修道女会、厳律シトー会、福音の光修道会  
ジョファイユの幼きイエズス修道女会、マリアの娘エスコラピラス修道女会、師イエズス修道会

### アンケートへの返答をお寄せくださった司祭・信徒の属する教会

- 【北海道】 留萌教会、旭川五条教会、富良野教会、稚内教会、北十一条教会、稚内教会、小樽教会、山鼻教会  
八雲教会、砂川教会、手稲教会、円山教会、柏林台教会、北二十六条教会、月寒教会、宮前町教会
- 【青森】 五所川原教会、青森松原教会（プロテスタント）、八戸塩町教会、十和田教会、大湊教会
- 【岩手】 北上教会、水沢教会、大船渡教会、遠野教会、四ツ家教会、一関教会、盛岡上堂教会 【秋田】 秋田教会  
横手教会、能代教会 【山形】 酒田教会 【新潟】 妙高教会、見附教会、栃尾教会 【福島】 郡山教会、桑折教会  
白河教会 会津若松教会 【宮城】 東仙台教会、北仙台教会、古川教会、米川教会、元寺小路教会、塩釜教会  
八木山教会 【栃木】 松が峰教会 【茨城】 水戸教会、那珂教会、日立教会、鹿島教会、取手教会、友部教会
- 【群馬】 渋川教会、前橋教会、桐生教会、草津教会、館林教会 【埼玉】 浦和教会、上尾教会、大宮教会、春日部教会  
東松山教会、加須教会、草加教会 【千葉】 松戸教会、豊四季教会、成田教会、習志野教会、茂原教会、鴨川教会  
館山教会、東金教会 【東京】 上野教会、浅草教会、高円寺教会、成城教会、碑文谷教会、目黒教会、初台教会、赤羽  
教会、渋谷教会 荻窪教会、清瀬教会、秋津教会、関口教会、麴町教会、三河島教会、亀有教会、葛西教会、小岩教会
- 【神奈川】 大和教会、片瀬教会、三笠教会、菊名教会、三浦教会、中原教会、末吉町教会、藤沢教会、原宿教会、  
大磯教会、百合ヶ丘教会、都築教会【奈良】 大和高田教会【三重】 鈴鹿教会 久居教会 四日市教会【愛知】 膳棚教会
- 【大阪】 なみはや教会、関目教会 【山口】 防府教会 宇部教会 北若山教会 【広島】 尾道教会 【高知】 中島町教会
- 【高知】 中島町教会【京都】 丹後加悦教会、河原町三条教会、小山教会 【兵庫】 仁川教会、夙川教会、垂水教会
- 【香川】 坂出教会 【福岡】 大名町教会、浄水道教会、古賀教会、茶山教会 田川教会、老司教会 久留米教会
- 【熊本】 本渡教会 【佐賀】 久留米教会、馬渡島教会、唐津教会、佐賀教会、松島教会 【愛媛】 道後教会、  
松山三番町教 【長崎】 浦上教会、愛宕教会、田平教会、山田教会、諫早教会 浜串教会、紐差教会、宝亀教会  
上神崎教会、城山教会 平戸ザビエル教会 【鹿児島】 大口教会、嘉渡教会 吉野教会 紫原教会 指宿教会
- 【沖縄】 首里教会、与那原教会、真栄原教会、普天間聖パウロ教会 宮古島平良教会 安里教会